

よりよい人間関係を形成する力

学校という場所は、人間関係をよりよく築くために、教育活動のあらゆる場面で、人間関係を形成する力を身に付けています。そんなことを感じた学習を紹介します。

「人間関係形成能力」と呼ばれていて、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられています。年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくっていきます。やはり、学校の必要性・存在意義を感じます。

6年外国語・・・「He is famous.(彼は有名です)She is great.(彼女は有名です)」

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを外国語で聞いたり読んだりして的確に理解していきます。また、外国語を話したり書いたりして適切に表現したり、伝え合ったりする力を育むことが外国語の目標になっています。英語で、積極的に発話することは、まさによりよい人間関係を築く基礎になります。



外国語で、積極的に！



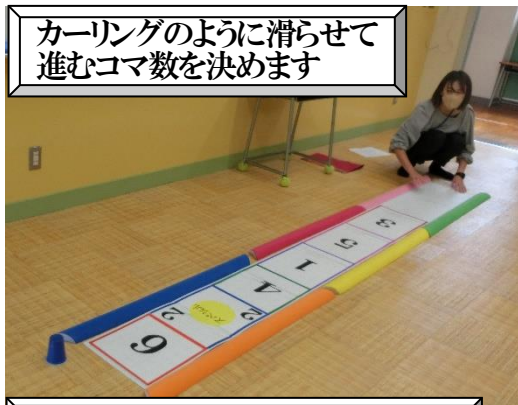
私はだれでしょう？質問したり答えたり、外国語を楽しむ

自分で誰かになりきって、紹介文を書き、話した後、相手に質問をしてもらい、自分が誰なのか、クイズのように当てていきます。「ドラミちゃん」、「大谷 翔平」、「工藤 静香」、「キムタク」などなど、自分たちがなりたい人や物になりきりました。「What do

you do?(職業はなんですか)」、「What do you like?(あなたは何が好きですか?)」、「Where are you from?(どこから来ましたが?)」など英語で書かれたカードを見ながら質問をしていきます。最後は、「Who is he?」、「Are you Otani Shohei?」など答えを聞き、納得となります。分からない時は「日本語」を交え、積極的にコミュニケーションを図り、英語を楽しむ子供たち…。グローバル化の社会を生き抜く子供の姿をみることができ、日本の将来もまんざらではないと思いました。

ひばり・・・「ひばりカーリングすごろく」・・・みんなで認め合い、ゲームを楽しむ

人には必ず「苦手さ」があり、その「苦手さ」を克服する教室がひばり教室です。多様化を認め合う社会にふさわしい時間と空間をうむ教室です。



カーリングのように滑らせて進むコマ数を決めます

学習の流れ・・・見通しをもつ

- ①カーリングすごろくの説明 **聞く**
- ②みんなですごろく作り **相談**
- ③カーリング練習タイム **力加減**
- ④カーリングすごろくで遊ぶ **協力**
- ⑤振り返り **伝える力**

また、個に応じた様々な「手立て」を考えながら、コミュニケーションスキルなどを身に付けていく学習です。

さいころではなく、長い長方形の紙に「数字」



すごろく作り・・・折り合いをつけ

が書かれている板の上を、紙コップにゴルフボールを入れ、カーリングのように滑らせて、いくつ進むかを決めます。すごろくも自分たちで「1回休み」「犬の鳴きまねをする」「2つ進む」など、自分たちでマスに貼ります。「ゴールの2つ前に『2つ進む』を貼ろう」などと、自分の考えを伝え「いいね」と反応します。人間関係形成するための力を養う活動です。

ゲームも、自分の失敗も相手の成功も認めながら、チームで学習を進めていきます。気持ちが温かくなるひと時でした。